

2019年6月6日

各位

JXTGホールディングス株式会社

**「第54回 JXTG児童文化賞」および「第49回 JXTG音楽賞」の受賞者が決定しました**

当社（社長：杉森 務）は、「第54回 JXTG児童文化賞」および「第49回 JXTG音楽賞」の受賞者を決定しましたので、お知らせいたします。

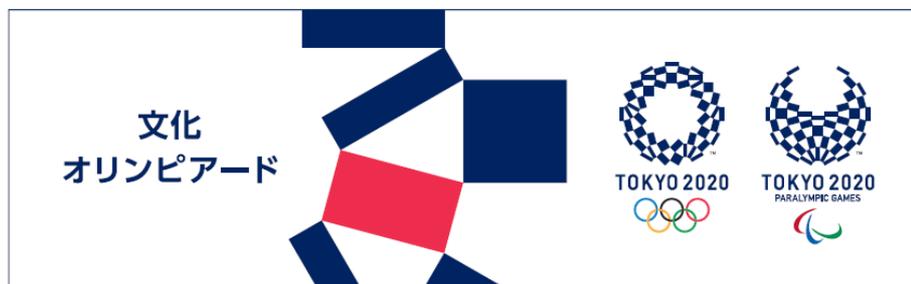
当社は、1966年に児童文化賞、1971年に音楽賞を創設して以来、約半世紀にわたり、わが国の児童文化・音楽文化の発展に大きな業績をあげられた個人または団体を顕彰してまいりました。今年度も選考委員会（※）による審議により、受賞者を決定しました。

なお、表彰式は、11月15日（金）にパレスホテル東京（東京都千代田区）において開催し、正賞としてトロフィー、副賞として賞金200万円を贈呈いたします。

名称		氏名（敬称略）	分野
第54回 JXTG児童文化賞		那須 正幹 （なす まさと）	児童文学作家
第49回 JXTG音楽賞	邦楽部門	観世 清和 （かんぜ きよかず）	能楽 観世流シテ方
	洋楽部門	本賞 尾高 忠明 （おたか ただあき）	指揮
		奨励賞 吉井 瑞穂 （よしい みずほ）	オーボエ

以上

「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から東京2020公認プログラム（文化）に認証されています。



※選考委員会委員（順不同、敬称略）

【児童文化賞】

野上 暁（児童文化研究家）

仲居 宏二（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

山極 壽一（京都大学総長）

【音楽賞 邦楽部門】

徳丸 吉彦（聖徳大学教授・お茶の水女子大学名誉教授）

塚原 康子（東京藝術大学教授）

加納 マリ（日本音楽研究家）

【音楽賞 洋楽部門】

関根 礼子（音楽評論家）

中村 孝義（大阪音楽大学理事長・名誉教授）

船木 篤也（音楽評論家）

<添付資料>

1. 「第54回 JXTG児童文化賞」および「第49回 JXTG音楽賞」の贈賞理由ならびに受賞者のプロフィール
2. 「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」の概要
3. 「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」の選考委員プロフィール
4. 「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」歴代受賞者リスト

**「第54回JXTG児童文化賞」および「第49回JXTG音楽賞」の贈賞理由ならびに各受賞者のプロフィール**

**1. 第54回 JXTG児童文化賞**

**那須 正幹 (なす まさと)**  
児童文学作家



◆ 贈賞理由 ◆

1972年『首なし地ぞうの宝』で作家デビューして以来、全50巻で累計2,500万部を超える驚異的な発行部数を記録した「ズッコケ三人組」シリーズはじめ、「お江戸の百太郎」シリーズなど、220余点の児童文学作品を通して多くの子どもたちに読書の面白さを伝えてきた功績は大きい。自らの原爆体験も含め綿密に取材した大型絵本『絵で読む広島原爆』は、内外で高く評価されている。『折り鶴の子どもたち』『八月の髪かざり』『ヒロシマ』三部作など原爆を語り継ぐ作品や、絵本『ねんどの神さま』など平和への願いを伝える作品は、未来を生きる子どもたちへの大切なメッセージとなっている。ほぼ半世紀近くにわたる子どもの本の様々な分野での精力的な創作活動と、多大な功績に対し本賞を贈賞したい。

(児童文化賞 選考委員会)

◆ プロフィール ◆

広島市己斐本町(現)に生まれる。1965年島根県立農科大学林学科を卒業、2年間東京の日通商事株式会社に勤務した後広島に戻り、家業の書道塾を手伝うかたわら1968年「子どもの家」同人となり、児童文学の創作を始めた。現在までに出版された単行本は220余点を数え、作品傾向はノンフィクションからSF、ミステリー、ユーモア、時代物、冒険物、文芸物など多岐にわたる。中でも「ズッコケ三人組」シリーズは1978年から2004年末の完結まで、50巻に達し、2005年からは「ズッコケ中年三人組」シリーズが年一冊の割合で刊行され、2015年『ズッコケ熟年三人組』で完結した。その他の作品に『ぼくらは海へ』『折り鶴の子どもたち』『絵で読む広島原爆』『少年たちの戦場』『ばけばけ』など。日本児童文学者協会、日本文藝家協会、日本ペンクラブ会員。

◆ 主な受賞歴 ◆

- 1994年 第16回路傍の石文学賞 「さぎ師たちの空」
- 1995年 第41回産経児童出版賞 「絵で読む広島原爆」
- 1995年 第35回日本児童文学者協会賞 「お江戸の百太郎・乙松、宙に舞う」
- 2000年 第38回野間児童文芸賞 「ズッコケ三人組のバック・トゥ・ザ・フューチャー」
- 2000年 第23回巖谷小波文藝賞
- 2013年 第52回日本児童文学者協会賞 「ヒロシマ」三部作

## 2. 第49回 JXTG音楽賞 邦楽部門

観世 清和 (かんぜ きよかず)  
能楽 観世流シテ方



©林 義勝

### ◆ 贈賞理由 ◆

能楽師、観世流シテ方。観世清和氏は観阿弥・世阿弥の流れを汲む観世流の二十六世家元である。国内外での公演で見事な演奏によって観客を魅了しつつ、古典の伝承とともに新作能を積極的に推進している。能の保存・研究・普及のために、観世家に伝わる能面・能装束・伝書の保管を目的に「観世文庫」を設立し、最近はそれらを「観世アーカイブ」としてインターネット上でも公開している。2017年には観世能楽堂を銀座に移転するという大事業を成功させた。「GINZA SIX」内に設置した二十五世観世左近記念 観世能楽堂を、能に限定することなく、他のジャンルも使用できる多目的ホールとしている。700年にわたって継承されてきた能の伝統を担い、それを次世代に伝えるとともに、新しい能のあり方を考え続ける観世清和氏の姿勢を、本委員会は高く評価する。

(音楽賞邦楽部門 選考委員会)

### ◆ プロフィール ◆

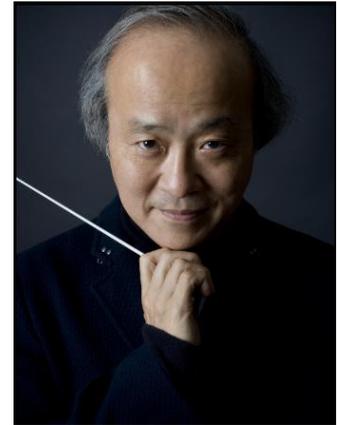
東京都生まれ。二十六世観世宗家。1990年宗家継承。初世 観阿弥・二世 世阿弥・三世 音阿弥の子孫。観世流家元として年間80番以上のシテ(主役)を勤め、その数は斯界随一であり、現在の能楽界を代表する。国内はもとよりフランス、アメリカ、インド、タイ、中国など世界各地で公演、2016年7月ニューヨーク・リンカーンセンターにおける招聘公演は、高い評価を得て大成功を収めた。また観世宗家に伝わる能面・能装束・伝書を収蔵する「一般財団法人 観世文庫」を設立し「観世アーカイブ」(インターネット)にて世阿弥自筆本をはじめ、多くの伝書・文書類を広く公開し、能楽の研究と普及に尽力している。2017年には、「観世能楽堂」を銀座へ移転。(独)日本芸術文化振興会評議員として日本の伝統芸術の保存と継承に寄与、また、東京藝術大学音楽学部講師、国立能楽堂三役養成主任講師として後進の育成にあたる。著書・共著・監修に『観世清和と能を観よう』、『新訳 風姿花伝』、『能はこんなに面白い』などがある。

### ◆ 主な受賞歴 ◆

1996年 第46回芸術選奨文部大臣新人賞  
1999年 フランス文化勲章 シュバリエ受章  
2002年 渋谷区制七十周年記念 特別表彰  
2013年 第63回芸術選奨文部科学大臣賞  
2013年 第33回伝統文化ポौर賞 大賞  
2015年 紫綬褒章

### 3. 第49回 JXTG音楽賞 洋楽部門本賞

尾高 忠明 (おたか ただあき)  
指揮



©Martin Richardson

#### ◆ 贈賞理由 ◆

指揮者は70代からが力の見せ所とはよく言われることだが、これまですでに内外の優れたオーケストラの首席指揮者や音楽監督として充実した業績を重ね、昨年大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督に着任した尾高忠明氏は、まさにそれを地でいくような快進撃を続けている。着任初年度に、指揮者にとってもオーケストラにとっても真の実力が問われるベートーヴェンの交響曲全曲に、敢えて既存のスタイルで挑戦し、作品の真価というもの演奏スタイルを超えた所にあることを、円熟、果敢な解釈で示し聴衆を圧倒したからだ。その比類のない完成度の高さを見ていると、彼は今このオーケストラに、歴史に残る偉大な1ページを刻み、自らの指揮芸術の集大成を計ろうとしているかのようにも見える。今後必ずや訪れるであろうさらなる高みへの飛翔を心から期待して本賞を贈呈する。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

#### ◆ プロフィール ◆

神奈川県鎌倉市生まれ。桐朋学園大学で斎藤秀雄氏に師事、またウィーン国立アカデミーに留学し、ハンス・スワロフスキー氏に師事した。NHK教育番組に多数出演し、クラシック音楽の啓蒙に尽力した。国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、ベルリン放送交響楽団など世界各地のオーケストラへ客演している。1991年サントリー音楽賞を受賞。また、1997年英国エリザベス女王より大英勲章CBEを授与、1999年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを贈られている。NHK交響楽団正指揮者、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠指揮者、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管弦楽団桂冠名誉指揮者に加え、2018年より大坂フィルハーモニー交響楽団音楽監督に就任した。現在、東京藝術大学名誉教授、相愛大学、京都市立芸術大学客員教授、国立音楽大学招聘教授を務めている。

#### ◆ 主な受賞歴 ◆

1991年 第23回サントリー音楽賞

1993年 ウェールズ音楽演劇大学 名誉会員称号授与、ウェールズ大学 名誉博士号授与

1997年 英国エリザベス女王より大英勲章CBE授与

1999年 英国エルガー協会 エルガー・メダル授与(日本人初)

2012年 第32回有馬賞(NHK 交響楽団)

2014年 北海道文化賞

2018年 第39回関西音楽クリティック・クラブ賞本賞、大阪文化祭賞、第70回日本放送協会放送文化賞

#### 4. 第49回 JXTG音楽賞 洋楽部門奨励賞

吉井 瑞穂 (よしい みずほ)  
オーボエ



©Satoko Imazu

#### ◆ 贈賞理由 ◆

きわだって表情ゆたかな吉井瑞穂氏のオーボエは、音楽の喜びを全方位にたちまち伝播させる強い喚起力をもつ。若くして欧州へ渡り研鑽を積んだのち、当地の名門、マーラー・チェンバー・オーケストラで長年首席奏者を務めた賜物であろう。近年、生活拠点を故郷・鎌倉に移してからは、その成果を、ソロおよび室内楽の活動をとおして日本に還元すべく力を注いでいる。とりわけ、自ら設立した音楽祭「レゾナンス 鎌倉の響き」(2015年～)では、舞踊芸術ほか異分野との協働も交えて、寺院や学校など地域のさまざまな生活圏に出向くという斬新な試みを継続。音楽の一極集中、旧態然とした上演形態に対する問題提起ともなっており、その高い社会意識をもあわせて顕彰したい。

(音楽賞洋楽部門 選考委員会)

#### ◆ プロフィール ◆

神奈川県鎌倉市出身。東京藝術大学入学後、渡独しカールスルーエ国立音楽大学を首席で卒業。日本音楽コンクール優勝ほか、英バルビローリ国際コンクール、日本管打楽器コンクールで入賞。アバドに認められ、2000年からマーラー室内管首席奏者として欧州を中心に演奏活動を行う。アバドをはじめ(共演200回以上)、ヴァント、アーノンクール、ブーレーズ、ハーディングといった巨匠の指揮で演奏を重ねる一方、欧州の主要オーケストラ、アンサンブルから頻りに客演首席奏者として招かれている。ソロや室内楽でも精力的な活動を展開し、テツラフ弦楽四重奏団、アンスネス、フロストらと共演する、甘美な音色と豊かな音楽性で世界の聴衆を魅了する国際派オーボエ奏者である。ニューヨークのマンハッタン音楽院、イギリス、スペイン、ドイツ、コロンビア、ベネズエラなどでマスタークラス教授として招かれ、後進の指導にあたっている。東京藝術大学非常勤講師、ルツェルン祝祭管設立メンバー。

#### ◆ 主な受賞歴 ◆

- 1995年 イギリス・アイル・オブ・ワイト国際オーボエコンクール 4位
- 1996年 第13回日本管打楽器コンクール入賞
- 1997年 第66回日本音楽コンクール オーボエ部門優勝

## 「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」の概要

当社は、JXTG児童文化賞およびJXTG音楽賞を日本の児童文化、音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設しました。毎年、児童文化賞、音楽賞邦楽部門、音楽賞洋楽部門本賞、音楽賞洋楽部門奨励賞の4賞につき、各々1個人または1団体を選出し、それぞれトロフィーと副賞賞金200万円を贈呈しております。

### 【JXTG児童文化賞】

1966年に創設した児童文化賞は、今年で54回を数える歴史ある賞に発展しました。受賞者と受賞分野の多彩さがこの賞の特色であり、童画家、教育者、写真家、児童文学作家、子供新聞の編集者、ミュージカル主宰者など、全国的に著名な活動から地域の活動まで、児童文化の各種分野から幅広く受賞者が選ばれています。

### 【JXTG音楽賞】

1971年に創設した音楽賞は、今年で49回目を迎えます。また、洋楽部門では1989年から、日本を代表する優れた若手音楽家を讃えるために奨励賞を設けました。邦楽部門においては、これまでに21人の受賞者が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績ではなく、それまでの実績全体に視点をおいた選考を行っている点がこの賞の特色です。

### 選考方法

児童文化界、音楽界の有識者の方々に受賞候補者の推薦を依頼し、その結果を参考にして、各部門3名の選考委員により構成される選考委員会において審議の上、受賞者を決定いたします。

## 「JXTG児童文化賞」および「JXTG音楽賞」選考委員プロフィール

### 【児童文化賞】



**野上 暁 氏**（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』、『“子ども”というリアル』、『子ども学 その源流へ』、『越境する児童文学』、『子ども文化の現代史』、共編著に『こどもの本ハンドブック』、『いま子どもに読ませたい本』、『明日の平和をさがす本』など。



**仲居 宏二 氏**（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。NHKでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社NHKエデュケーショナル常務取締役後、ポツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。2012年より聖心女子大学教授を務め、2015年より同大学非常勤講師。



**山極 壽一 氏**（京都大学総長）

京都大学大学院理学研究科修士課程修了。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、現在京都大学総長。著書に『家族進化論』、『「サル化」する人間社会』、『京大式おもしろ勉強法』などがある。

## 【音楽賞 邦楽部門】



### 徳丸 吉彦 氏

(聖徳大学教授・お茶の水女子大学名誉教授)

東京大学文学部卒業。ラヴァール大学(カナダ)より博士号。国立音楽大学・お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は『ミュージックスとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線音楽の旋律的様相』(仏語)、『音楽・記号・間テキスト性』(英独仏語)、共編に『ガーランド世界音楽辞典7：東アジア』(英語)がある。



### 塚原 康子 氏 (東京藝術大学教授)

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(学術博士)。現在、東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』、『明治国家と雅楽』、共著に『はじめての音楽史』、『日本の伝統芸能講座—音楽—』など。



### 加納 マリ 氏 (日本音楽研究家)

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科(音楽学専攻)修了。日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁芸術祭審査委員(音楽)、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画委員(伝統芸能)、文化庁芸術選奨選考委員(音楽)、国立劇場邦楽公演専門委員などを務める。

## 【音楽賞 洋楽部門】



### 関根 礼子 氏 (音楽評論家)

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動を行い、1981年よりフリー。現在、昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員、『日本のオペラ年鑑』編纂委員、三菱UFJ信託芸術文化財団理事、東京オペラシティ文化財団理事、ニッセイ文化振興財団理事ほか。著書に『オペラの世界』、『日本オペラ史1953～』、共著に『オペラ事典』など。



### 中村 孝義 氏 (大阪音楽大学理事長・名誉教授)

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに日本音楽芸術マネジメント学会理事長、(独法)日本芸術文化振興会基金運営委員会委員長、(公財)ロームミュージックファンデーション、(公財)アフィニス文化財団、(公財)花王芸術・科学財団など、多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』、『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』、『音楽の窓』など。



### 船木 篤也 氏 (音楽評論家)

東京大学大学院とブレーメン大学に学ぶ。「読売新聞」で演奏評を、NHKで音楽番組の解説を担当。雑誌等でも執筆。東京藝術大学ほかでドイツ語講師。共著に『魅惑のオペラ・ニーベルングの指環』、共訳書に『アドルノ音楽・メディア論』など。(公財)アフィニス文化財団・オーケストラ助成専門委員、(独)日本芸術振興会・芸術文化振興基金専門委員(音楽)、(公財)サントリー芸術財団・佐治敬三賞選考委員、日本ワーグナー協会理事。

## 「JXTG児童文化賞」歴代受賞者リスト（敬称略、\*は故人）

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1966	初山 滋* 日本童話会(会長・後藤 樽根*)	童画家
2	1967	千葉省三* 人形劇団ブーク(代表・川尻泰司*)	童話作家
3	1968	棕 鳩十* ダークダックス	児童文学者 コーラスグループ
4	1969	金沢嘉市* 市川市立養護学校の詩集「いずみ」	教育評論家
5	1970	眞理ヨシコ 戸塚 廉*	童謡歌手 「おやこ」新聞編集発行
6	1971	吉澤 章*	折り紙作家
7	1972	管野邦夫	仙台市野草園園長
8	1973	アン・ヘリング	児童文学研究者
9	1974	滝平二郎*	きり絵作家
10	1975	辻村ジュサブロー	人形作家
11	1976	富田博之* 劇団「風の子」(代表・多田 徹*)	青少年文化研究者
12	1977	坂本小九郎と湊中学校養護学級の生徒達	美術教育と版画制作
13	1978	佐野浅夫 瀬川康男*	俳優 絵本作家
14	1979	田沼武能	写真家
15	1980	渡辺茂男*	児童文学者
16	1981	ろばの会	作曲家グループ
17	1982	富山県立近代美術館(館長・小川正隆*)	
18	1983	萩本欽一	TVタレント
19	1984	長崎県外海町(町長・平野武光)	
20	1985	東京放送児童合唱団(代表・近藤真司)	
21	1986	手で見るギャラリー・TOM(代表・村山亜土*・治江)	
22	1987	ボニージャックス	コーラスグループ
23	1988	人形劇カーニバル飯田実行委員会(実行委員長・松澤太郎*)	
24	1989	岡本忠成*	アニメーション作家
25	1990	与田準一*	童謡・童話作家
26	1991	今西祐行*	児童文学作家
27	1992	「中学生日記」	NHKテレビ番組
28	1993	松居 直	福音館書店会長
29	1994	香川県大川郡大内町(町長・中條弘矩)	
30	1995	「まんが日本昔ばなし」	テレビアニメ番組:愛企画センター制作
31	1996	神沢利子	児童文学作家
32	1997	阪田寛夫*	詩人・作家
33	1998	細川真理子	「札幌こどもミュージカル」代表
34	1999	太田大八*	絵本画家
35	2000	谷川俊太郎	詩人
36	2001	大原れいこ	テレビ演出家
37	2002	長 新太*	絵本作家
38	2003	山中 恒	児童文学作家
39	2004	越部信義*	作曲家
40	2005	松谷みよ子*	作家
41	2006	演劇集団 円 円・こどもステージ	児童劇
42	2007	佐藤さとる*	児童文学作家
43	2008	今江祥智*	児童文学作家
44	2009	神宮輝夫	児童文学研究者・翻訳家
45	2010	今森光彦	写真家
46	2011	河合雅雄	霊長類学者
47	2012	加古里子*	児童問題研究者
48	2013	角野栄子	作家
49	2014	公益財団法人 東京子ども図書館	
50	2015	五味太郎	絵本作家
51	2016	あまんきみこ	児童文学作家
52	2017	萩尾望都	漫画家
53	2018	奥本大三郎	作家・フランス文学者
54	2019	那須正幹	児童文学作家

「JXTG音楽賞」 邦楽部門 歴代受賞者リスト (敬称略、\*は故人)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1971	山口五郎*	琴古流尺八
2	1972	松崎倭佳*	長唄 唄方
		稀音家幸*	長唄 三味線
3	1973	菊原初子*	地歌 箏曲
4	1974	田中伝左衛門*	歌舞伎 長唄囃子
5	1975	杵屋正邦*	現代邦楽作曲
6	1976	観世寿夫*	能楽 シテ方
7	1977	山彦河良*	河東節
8	1978	杵屋佐登代*	長唄 唄方
9	1979	鶴田錦史*	薩摩琵琶
10	1980	町田佳聲*	邦楽研究評論
		福原百之助*	長唄 囃子笛方
11	1981	太田里子*	地歌 箏曲
12	1982	今藤長十郎*	長唄 三味線
13	1983	都 一中*	一中節 三味線
14	1984	常磐津文字兵衛	常磐津節 三味線
15	1985	浅川玉兎*	長唄研究
		竹本住大夫*	義太夫節太夫
16	1986	杵屋五三郎*	長唄 三味線
17	1987	中田博之*	箏曲
18	1988	平井澄子*	現代邦楽
19	1989	米川敏子*	箏曲
20	1990	日本音楽集団	現代邦楽創造グループ
21	1991	尺八三本会	尺八
22	1992	宮田哲男	長唄 唄方
23	1993	一噌幸政*	能楽 笛方
24	1994	都一いき*	一中節
25	1995	藤井久仁江*	地歌 箏曲
26	1996	竹本駒之助	女流義太夫
27	1997	芝 祐靖	雅楽
28	1998	観世榮夫*	能楽 シテ方
29	1999	鶴澤清治	文楽 三味線方
30	2000	田島佳子*	長唄 三味線方
31	2001	山本東次郎	大蔵流狂言
32	2002	川瀬白秋*	箏曲 胡弓
33	2003	大和久満*	大和楽 三味線方
34	2004	米川裕枝	箏曲
35	2005	味見 亨	長唄 三味線方
36	2006	野坂恵子	箏曲
37	2007	横道萬里雄*	楽劇評論
38	2008	今藤政太郎	長唄 三味線方
39	2009	藤舎呂船	邦楽囃子
40	2010	近藤乾之助*	能楽 宝生流 シテ方
41	2011	豊竹咲大夫	文楽義太夫節太夫
42	2012	清元美治郎	清元節 三味線方
43	2013	今藤尚之	長唄 唄方
44	2014	中川善雄	邦楽囃子 笛方
45	2015	沢井一恵	箏曲
46	2016	稀音家義丸	長唄演奏家・研究者
47	2017	豊竹呂太夫	文楽義太夫節太夫
48	2018	杵屋勝国	長唄 三味線
49	2019	観世清和	能楽 観世流シテ方

「JXTG音楽賞」洋楽部門本賞 歴代受賞者リスト (敬称略、\*は故人)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1971	江藤俊哉*	ヴァイオリン
2	1972	朝比奈 隆*	指揮
3	1973	東京室内歌劇場	オペラ
4	1974	巖本真理* 弦楽四重奏団	室内楽
5	1975	小澤征爾	指揮
6	1976	鈴木鎮一*	音楽教育
7	1977	園田高弘*	ピアノ
8	1978	音楽之友社	音楽総合出版
9	1979	小林道夫	チェンバロ
10	1980	二期会	声楽研究・オペラ公演
11	1981	武満 徹*	作曲
12	1982	渡辺暁雄*	指揮
13	1983	札幌交響楽団	オーケストラ
14	1984	野村光一*	音楽評論
15	1985	東 敦子*	ソプラノ
16	1986	藤原歌劇団	オペラ
17	1987	堤 剛	チェロ
18	1988	アンリエット・ピュイグ＝ロジエ*	ピアノ
19	1989	吉田雅夫*	フルート
20	1990	三善 晃*	作曲
21	1991	若杉 弘*	指揮
22	1992	中澤 桂*	ソプラノ
23	1993	和波孝禧	ヴァイオリン
24	1994	松村禎三*	作曲
25	1995	今井信子	ヴィオラ
26	1996	秋山和慶と東京交響楽団	
27	1997	畑中良輔*	バリトン・音楽評論
28	1998	松本美和子	ソプラノ
29	1999	鈴木雅明とバッハ・コレギウム・ジャパン	
30	2000	大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス	
31	2001	西村 朗	作曲
32	2002	海老彰子	ピアノ
33	2003	福井 敬	テノール
34	2004	小栗まち絵	ヴァイオリン
35	2005	中村紘子*	ピアノ
36	2006	モーツァルト劇場(主宰:高橋英郎)	オペラ
37	2007	前橋汀子	ヴァイオリン
38	2008	ゲルハルト・ボッセ*	指揮
39	2009	大野和士	指揮
40	2010	田中信昭	合唱指揮
41	2011	公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団	オーケストラ
42	2012	舘野 泉	ピアノ
43	2013	小山実稚恵	ピアノ
44	2014	佐々木典子	ソプラノ
45	2015	寺神戸亮	ヴァイオリン・指揮
46	2016	井上道義	指揮
47	2017	モルゴーア・クアルテット	弦楽四重奏
48	2018	池辺晋一郎	作曲
49	2019	尾高忠明	指揮

「JXTG音楽賞」洋楽部門 奨励賞歴代受賞者リスト (敬称略)

回	年度	氏名・団体名	分野
1	1989	吉野直子	ハーブ
2	1990	漆原朝子	ヴァイオリン
3	1991	長谷川陽子	チェロ
4	1992	佐久間由美子	フルート
5	1993	仲道郁代	ピアノ
6	1994	錦織 健	テノール
7	1995	千住真理子	ヴァイオリン
8	1996	高橋薫子	ソプラノ
9	1997	樫本大進	ヴァイオリン
10	1998	若林 顕	ピアノ
11	1999	佐野成宏	テノール
12	2000	横山幸雄	ピアノ
13	2001	森 悠子主宰長岡京室内アンサンブル	
14	2002	矢崎彦太郎	指揮
15	2003	川田知子	ヴァイオリン
16	2004	齊田正子	ソプラノ
17	2005	渡辺玲子	ヴァイオリン
18	2006	篠崎和子	ハーブ
19	2007	藤村実穂子	メゾソプラノ
20	2008	幸田浩子	ソプラノ
21	2009	趙 静	チェロ
22	2010	藤倉大	作曲
23	2011	粟國淳	オペラ演出
24	2012	山崎伸子	チェロ
25	2013	古典四重奏団	弦楽四重奏
26	2014	下野竜也	指揮
27	2015	川本嘉子	ヴィオラ
28	2016	萩原麻未	ピアノ
29	2017	中村恵理	ソプラノ
30	2018	小倉貴久子	フォルテピアノ
31	2019	吉井瑞穂	オーボエ